

新編武藏國風土記稿

豊嶋郡

卷之十一

和書門類		
一六五〇	二二二〇	二五五〇
號	函	冊

内閣文庫		
一六五〇	二二二〇	二五五〇
號	冊	函
和書		

内閣文庫	
番號	和 16510
冊數	255 (12)
函號	173 210



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



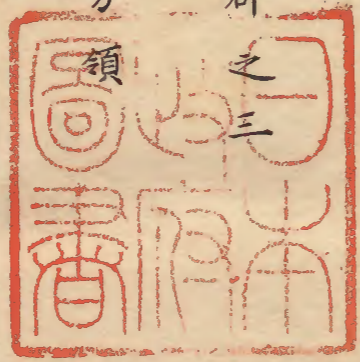
Blank page with faint red seal impressions and a light blue border.

Blank page with a light blue border.



新編武藏風土記卷之十一目錄

豊島郡



野方

内藤新宿

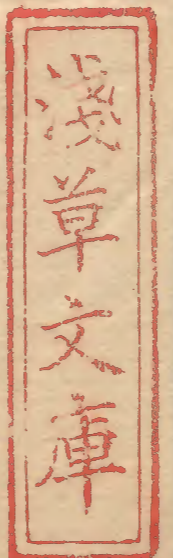
千駄ヶ谷村

代々木村

幡ヶ谷村

角筈村

柏木村



東久保村

西久保村

諏訪村

戸塚村

大久保新田

源兵衛村

下戸塚村

新編武藏風土記卷之十一

豊島郡之三

野方領

内藤新宿

内藤新宿ハ。甲州道中宿驛ノ一ナリ。御打入ノ後
内藤大和守ニ給ヒシ屋鋪ノ内ヲ。後年裂テ上地ト
ナリシ頃モ萱葎原ナリシヲ。元禄十一年。江戸淺草
阿部川町ノ名主喜兵衛。及ビ淺草ノ町人市左衛門。
志右衛門。嘉吉。五兵衛ト云者。願上テ今ノ如ク幅五

間半ノ街道ヲ開キ。左右ニ宿並ノ家作ヲナシ。喜兵衛ハ喜六ト改メ。五人共ニ移リ住セリ。元内藤氏ノ屋鋪ナリシユヘ。其儘内藤新宿ト名付。江戸ヨリ多磨郡上下高井戸宿マテ人馬絶立ノ驛亭トセシガ。享保三年宿驛ヲ止メラレテ。御料ノ町場トナリシニ。明和九年安藤弾正少弼道中奉行タリシ時。元ノ如ク宿驛ニ建ラレ。定人足二十五人。馬二十五匹ヲ出シテ。上下高井戸宿へ絶立セリ。又同郡青梅道中野村。相州久倉澤往來世田谷村へモ絶送レリ。今モ起立人子孫ノ内。三人ハ名主ニテ。一人ハ問屋ヲ兼

帶ス。日本橋ヨリ二里。東ハ四ッ谷大木戸武家屋鋪。東南ハ内藤大和宇下屋鋪。南ハ又武家屋鋪。四ッ谷天龍寺境内。坤ハ同寺門前地ニテ。西ハ角筈村。北ハ大久保百人組屋鋪。四ッ谷大宗寺門前。又伊澤助三郎。有馬鶴之助。朝倉小左衛門ガ下屋鋪ニモ接ス。東西九丁餘。南北一丁ニ足ラズ。皆家並ヲナシ。七百三十八軒ニ及ベリ。上地以來御料所ナリ。其餘大久保番匠町。四ッ谷新屋鋪。較河橋邊。及千駄谷。代々木。角筈三村ノ内ニアリシ武家屋鋪。安永六年以來上リシ地。合ニ十三ヶ所。段別二丁四畝二十二歩ノ御預所アリ。内

藤新宿添地ト唱フ。其内家作御免アリシモノ十ヶ所。戸数合三十七。又宿ノ南裏玉川上水端ニ上リ地アリシヲ。寛政十二年御預トナリ。四段五畝二十四歩ノ畑永ヲ扱ム。共ニ御料ニ属ス。

高札場 宿ノ西追分ニアリ

小名 上町

仲町

下町

町内三所ヨリ北ニ折レ。麴屋横町。大宗寺横町。三光院横町等ノ唱アリ。南ニ通ズル方ヲ新屋鋪横町ト呼ブ。

追分

上町ノ西ハツレニテ。甲州道中ト青梅道ノ兩路ニ分ル所ナリ。故ニ此名アリ。

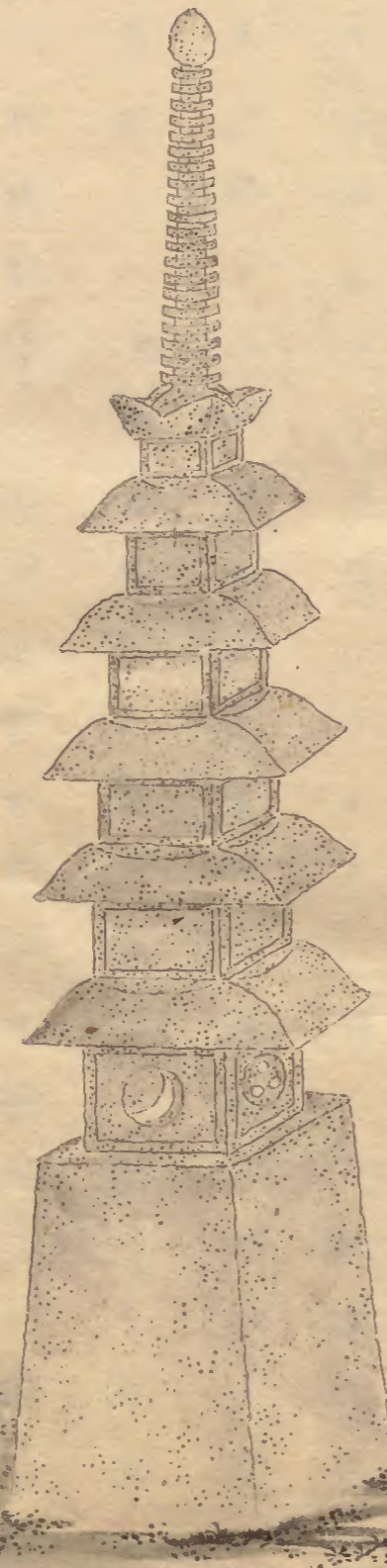
玉川上水堀 病ノ南ニアリ。幅三間五尺。高三尺ノ堤ヲ設ク。

稻荷社 子安稻荷ト號ス。寛永年中マテ一里塚アリ。塚上ノ榎枯シ後。塚ヲ崩シテ平地トナシ。寶永七年願上テ當社ヲ營造スト云。神躰及本地佛十。一面觀音。共ニ弘法大師ノ作ナリ。秋葉歡喜天ヲ相殿トス。秋葉ハ小野篁伽羅ヲ以テ作レル像十

リ。
庵 唐人陸羽ノ像ヲ置。長三寸六分。傳へ云。拇尾
ノ僧明恵所持ノ像ニシテ。其後子利休へ傳來
シ。後年故アリテ當所ニ納ムト云。
別當重寶院 當山修驗。江戸青山鳳閣寺配下。寶
永七年寺山號ノ免許アリテ。内藤山安産寺ト
號ス。開山秀慶。同八年寂セリ。
植木屋長助 安田氏ナリ。祖先ハ甲州武田氏ニ仕
ヘシ由ヲイヘド。家系ヲ詳ニセズ。中古ヨリ庭作
リノコトヲ巧ニシテ。紀州家ニ出入セシガ。

有徳院殿未ダ紀州ノ館ニマシマセシ頃。長助ガ
業ノ巧ナルヲ愛サセ給ヒ。御庭ニ於テ屢 上意
ヲ蒙リ。拜領物等アリ。享保元年紀州ノ御庭ニ。伊
豆國土肥石ニテ。高一丈八尺ノ五重燈籠ヲ置カ
ルベキ御好ミアリシニ。長助御旨ヲウケタマハ
リ。豆州ノ石工ニ命ジ。月ヲ登テ燈籠成リシガ。既
ニ御入城ノ後ナレバ。先其マ、長助ガ宅地へ差
置ベキ上意アリ。同年紀州御庭ノ牡丹ヲ御本
丸へ移サセラレシ頃。長助其事ヲ司ドリシヨリ。
以來御庭御用ヲ勤ムベキトノ仰ヲ蒙リ。陸土圭

間御廊下ニテ。御料理ヲ賜レリ。或時御庭へ出シ
 オリカケラ。望アラバ申上ベシトノ。上意ヲ蒙リ。
 長屋門及ビ玄關構ノ居住ヲ願ヒ上ゲ。下町ニ彼
 家作ヲ營ミ居住セリ。然レニ天明四年火災ニ罹
 リ。拜領ノ品ニテ残りナク烏有トナレリ。ソレヨ
 リ病外ノ添地ニ移リテ。元ノ如ク家作ヲ營ミシ
 ハ。即今ノ居住ナリ。其後ニ御庭御用ヲ勤メ。吹上
 奉行ノ支配ニ属スト云。御預ケトナリシ石燈籠
 ハ。今モ庭前ニ置ケリ。其圖左ノゴトシ。



千駄ヶ谷村

千駄ヶ谷村ハ。北條後帳ニ。島津孫四郎八貫六百四十
文千駄ヶ谷トアリ。然ルヲ土人ノ傳ヘニ。此邊天正前
民戸總ニ二三軒。萱多ク寛永ノ頃日々千駄ノ萱ヲ
蒔取レカバ。村名起リシ由ヲ云ヘリ。既ニ正保改ニ
ハ。千駄萱村ト記レ。延寶年中ノ水帳ニハ。千駄之萱
村ト記セリ。元禄改定ノ國圖ニハ。今ノ如ク千駄ヶ谷
ト載ス。日本橋ヨリ二里。家數二十三。東ハ内藤大和
守下屋鋪。及四ッ谷大番町。鮫河橋邊武家屋鋪。南ハ原

宿村。原宿町。東南ハ御鹽焔藏。西ハ井伊掃部頭下屋
鋪。及代々木角苦ノ二村。北ハ四ッ谷天龍寺門前。内藤
新宿。四ッ谷新屋鋪。及六軒町。四ッ谷大木戸ニ接ス。東西
二十丁。南北十丁餘。古ヨリ御料ノ外。浅草西福寺領
百石。駒込吉祥寺領五十石。本所靈山寺領五十石。湯
島根生院領二十石等交レリ。西福吉祥二寺ハ。元和
四年。靈山寺ハ慶長十一年。根生院ハ元禄四年六月
賜ハレリ。寛永十六年八月延寶二年四月中川八郎
左衛門閔口作左衛門檢地ス。村内ニ六藏ニ賜ヘル
免許屋鋪地アリ。コハ小石川ニ住セシ六藏ト云者。

忠義ノ事アリ。元禄九年其賞トシテ十四石七斗九
升ノ地ヲ給ヒ。諸役ヲ免サレシニ。明ル十年其内御
用地トナリシ代地ハ小石川村ノ内ニテ賜ヒ。其餘
ハ當村ニ残レリ。六藏ノ子孫六藏ハ。今小石川七軒
町ニ居レリ。當村ニ住スル平次郎モ。六藏ノ同家ナ
リ。又村内町並トナリシ地ハ一町九畝四歩。千畝ノ谷
町正徳三年町奉行支配トナリ。一畝六歩ハ神明門
前。二段九畝四歩餘大番町。共ニ延享三年ヨリ町奉
行支配トナレリ。サレト貢ノコトハ舊ニヨル。此餘
一段四畝十三歩ハ。元禄年間武家賜地ノ町屋トナ

リ。千駄ヶ谷町ノ内ニ属シ。正徳ノ度同ク町奉行支配トナリ。又瑞圓寺門前二段九畝二十五歩。聖輪寺門前五畝六歩。共ニ村内ヲ裂テ其寺院ニ賜ハリ。延享三年ヨリ町奉行支配トナル。高札場村ノ東寄ニアリ。

小名

千駄ヶ谷町

神明門前

瑞圓寺門前

聖輪寺門前

大番町

以上五ヶ所ハ。御府内ノ部ニ出

セリ。其地ニアレ寺社ノ如キモ亦然リ。

新町

村ノ西北ニテ。甲州道中ナリ。民家

連住ス。

北脇

川向

下道

南前

玉川上水堀村ノ西北ヲ流。幅三間餘。小橋ヲ架ス。

千駄ヶ谷橋ト呼。

玉川上水枝流。玉川上水本流ハ。大木戸ヲ経テ四ッ

谷御門ニ至ル。其間大木戸ノ傍ニテ。一條ヲ南ニ

分水ス。幅二間。則村内東邊ヲ通シ。原宿村ニ達ス。

土人除水堀ト稱ス。橋三所アリ。二ハ石橋。一ハ板

橋十リ。

紀伊殿抱屋鋪四町。

水野左近將監抱屋鋪一町六段。

水野日向守抱屋鋪一町。

龍善寺跡。龍善寺ハ半込早稲田町ニ移リ。其餘地

今ニ此ニ残レリ。則彼寺ノ持。

代々木村

代々木村ハ。日本橋ヨリニ里半。谷盛庄七郷ノ一十
ル由。或書ニ見エタレド。今土人ハ傳ヘズ。東西三十
丁許。南北二十五丁許。武家拜領屋鋪。及抱地等許多
入會ヒ。全ク村落ヲナセル所ハ。村内半ニ過ズ。東ハ
千駄ヶ谷上澁谷ノ二村。西ハ荏原郡下北澤村。及郡内
幡ヶ谷村。南ハ中澁谷上目黒ノ二村。北ハ角筈村ナリ。
家數百六十六。甲州街道村ノ北ニカ、レリ。正保改
ニハ。御料所及柴山九右衛門後室ノ知行トアリ。此

九右衛門ノ妻ニ知行ヲ賜ヒシ事ハ。村内正春寺ノ
傳ニ詳ナリ。其後彼ガ知行ヲ。太田太郎左衛門ニ賜
ヒシガ。承應二年上リテ御料ニ属シ。今ニ然リ。其餘
寺社領ニテ。其賜リシハ。寛文五年江戸山王社領百
三十一石七斗九升八合。芝神明ノ社領十五石。元禄
四年湯島根生院領八十石。正徳二年小石川無量院
領二十石。享保十四年赤坂氷川社領二百石賜ハレ
リ。檢地ハ寛文四年野村彦太夫改メ。新田ハ同十三
年同人糺シ。享保十二年笥播磨守改ム。
高礼場 村ノ東ニアリ。

小名

一本松 村ノ南ニアリ。鞍掛松トモ云。相
傳フ永保二年五月。源義家奥州征伐ノ
時。當所マデ出陣アリテ。父頼義ノ赴告
ヲ聞キ。七日此地ニ滞留シテ齋シ給フ
頃。蘆毛ノ馬ヲ此松ニ繫テ。鞍ノ掛置シ
故ノ名ナリト。サレド其松ハ枯テ。今ハ
跡モナク。終ニ小名ニ殘レリ。又村ノ中
程ニ復松ト云アリ。ソノカミ授ノ老木
アリシニ。其中腹ヨリ松一株ヲ生シ。相

生ノ如シ。故ニカク呼ベリト云。是モ今
ハニ樹共枯テ。別ニ尋常ノ松一株ヲ植

ユ。

代々木新町 甲州街道ニソヒシ民家ヲ

云。千駄ヶ谷新町ニ續ケリ。

バ千山 地藏窪 本村

山谷 富ヶ谷 深町

初臺

玉川上水堀 北邊ヲ流ル。幅三間程。小名深町ニテ

此流ヲ分水シ。甲州街道ヲ横ニ貫テ。角筈村ニカ

カレリ。神田上水ノ助水トス。

八幡社 村ノ鎮守ナリ。建暦二年壬申。荒井宗祐ト

云モノ起立スト傳フ。事跡詳ナラス。福泉寺持。

神樂殿

末社 天神 稻荷

稻荷社 永正十七年ノ鎮座ト云。土俗堀出シ稻荷

ト唱フ。芝神明稱亘守屋隼人持。

奉神社 元和三年ノ勸詣ナリ。大聖院持。

神明社 千駄ヶ谷村瑞圓寺持。寛永十九年ノ勸詣ト

云。

白山社 村持。

福泉寺 天台宗。江戸山王別當觀理院末。寶珠山智

明院ト號ス。當寺古ハ淨土宗ナリシヲ。中興開山

傳譽任職タリシ時。正保元年故有テ今ノ宗門ニ

改ム。中興開基ハ紀伊殿ノ妾ニテ。法名圓住院ト

號ス。山田右衛門政秀ノ女ナリト云。元祿三年没

ス。本尊藥師。寛文十二年圓住院ノ寄附スル所ト

云。

鐘樓 享保四年鑄造ノ鐘ナリ。

觀音堂 十一面觀音。木ノ立像ヲ安置ス。長四尺

餘。安阿彌ノ作。

間魔堂

清岸寺 淨土宗。江戸小石川傳通院末。龍池山不斷

院ト號ス。古ハ寶池山ト稱セシ由。開山專蓮社覺

譽吞了。寛永元年ノ起立ト云。吞了ハ石州津和野

ノ産ナリト。傳燈總系譜ニ載タリ。正保四年十

二月十五日寂ス。

在 春寺 淨土真宗。京都東本願寺末。柴山安養院ト

號ス。本尊彌陀。開山釋正入。明曆三年四月九日化

ス。開基ハ柴山九右衛門吉次ノ妻ニテ。土井次郎

左衛門昌勝ノ女ナリ。慶安四年九月十二日死シ。
法名正春院清安ト稱ス。ユノ女名ヲユフト呼ビ。
台徳院殿ニ仕ヘ奉リシガ。當村ニテ知行ニ百石
ヲ賜ハリ。老後此地ニ菩提寺ヲ建テシコトヲ諳
テ。則夫ノ氏ヲモテ山號トナシ。柴山正春寺ト號
ス。彼知行ノ地ハ。後年願上テ。其甥太田次郎左衛
門康俊ノ子。太郎左衛門康重ト云者ニ賜ヒシガ。
其後知行所替アリシト云ヘリ。康重ガ子孫今市
左衛門ト稱シ。篠下ノ士ナリ。
諦聽寺 同宗同末。正春寺地内ニ居レリ。堀永山ト

號ス。万治元年僧了譽ノ起立ナリ。古ハ四ッ谷ニア
リシガ。中頃駿州清水ヘ移リ。享保年中此地ヘ引
移セリ。本尊彌陀ヲ安ス。
大正院 當山修驗。青山鳳閣寺配下。觀林山ト號ス。
本尊不動。
稻荷社
觀音堂 慶長六年大正院此別當トナレリ
御茶屋蹟 境内南ノ方ニアリ。
大猷院殿 御遊獵ノ時。御鷹匠頭小野久内奉リ
テ。御造作アリシ御茶屋ナリ。御成ノ後。吳服

一重。白銀十枚ヲ。大正院ニ賜ヘリ。御取拂トナ
リシ後。二間半四方ノ間。竹ノ埒ヲ設ケ。其中ニ
躑躅三株ヲ植テシレトス。

火屋 村ノ西ニアリ。此邊ヲ狼谷ト云。廣サ九百坪。
非人ノ家三軒アリ。四谷西念寺。勝興寺。戒行寺。麴
所。栖岸院。心法寺。五ヶ寺ノ祥領地ニシテ。茶毘所
十リ。文祿年中マテ。四谷今日谷ニアリシガ。後年
千駄ヶ谷村ニ移リ。寛文四年八月。當所ニ移サレシ
ト云。

米津 梅千之助抱屋鋪 八百三十四坪。

秋田 山城守抱屋鋪 四千百三十二坪。

久志 本左京抱屋鋪 七百六十八坪。

米津 伊勢守抱屋鋪 四千二十二坪。

深津 彌三郎抱屋鋪 二千四百七十一坪。

水野 日向守抱屋鋪 三千五百坪。

林中 務抱屋鋪 七千百二十三坪。

大岡 土佐守抱屋鋪 二千八百二十五坪。

土井 七太郎抱屋鋪 七百四十八坪。

牧野 伊豫守抱屋鋪 二千二百三十六坪。

富安 九八郎抱屋鋪 五百二十七坪。上澁谷。上知上

澁谷。上豊澤ノ三村ニ跨リ。

幡谷村

幡谷村ハ小田原役帳ニ遠山藤六知行十一貫文幡谷トアリ。江戸ヨリ三里。民戸百三十八。東西二十三丁。南北八丁餘。東ハ角筈村。南ハ代々木村。西ハ荏原郡代田村。及ビ多磨郡和田村。北モ同郡雑色村ナリ。用水ハ玉川上水ヲ分流セラ。田間ニ次ケリ。正保改ニ御料及神谷又五郎知行ト載ス。今モ御料ノ外。神谷縫殿助ノ知ル所ナリ。檢地ハ寛文四年。延寶元年ノ二度。野村彦太夫紀レ。新田ノ方ハ享保十七年。寛

播磨守改ム。村ノ南ニ甲州道中係レリ。道幅四間半。
高札場 村ノ東ニアリ。

小名

新町 甲州道中ニ傍ヒシ地ニテ。代々木

新町ニ續ケリ。

原 笹塚 本村

山谷

玉川上水堀 村南ヲ流ル。幅二間餘。

水川社 村ノ鎮守ナリ。莊嚴寺持。

末社 稻荷

莊嚴寺 新義真言宗。江戸大塚護國寺末。光明山真

言院ト號ス。開山有悦。天文二年五月十五日寂。本

尊藥師。

不動堂 木佛立像長三尺三寸。智證大師作。縁起

ニ云。智證大師三井寺開基ノ時。自ラ此不動ヲ

彫刻シテ。彼寺ノ本尊トセシカ。天慶二年。平貞

盛藤原秀卿等。平將門追討ノ時。秀卿コノ不動

ニ祈誓ヲコメ。陣中マテ守リ行テ。渴仰急リ無

ク。果シテ勝利ヲ得タリシカバ。凱陣ノ頃。下野

國小山ノ郷ニ安置セリ。其後遙ノ星霜ヲ歴テ。

永祿年中。武田信玄甲州七覺山邊ニ移シテ。崇
敬セシヲ。北條氏政奪ヒ取テ。相州筑井縣地勝
院ニ納ム。然ルニ天正十八年。北條氏没落ノ後。
東照宮代々ノ武將崇敬アリシ像ナル事ヲ聞
シノサレテ。多磨郡宅部村三光院ニ移シ給ヒ。
延享四年九月。靈夢ノ告アリテ。當寺ニ安置ス
ト云。

稻荷社

法界寺 淨土宗。入間郡川越蓮馨寺末。傳燈山般若
院ト號ス。開山傳譽順良。寛永七年十一月十五日

寂ス。本尊彌陀。

間魔堂 藥師堂

法性寺 羽黒行人派。江戸音羽丁普門院配下。讀海
山ト號ス。開山讀海。正保三年四月十八日寂ス。本
尊大日。

松平鶴太郎抱屋鋪 八千七百八十坪餘。
小芝原鎌之助抱屋鋪 一万千三百坪。

角筈村

角筈村ハ。日本橋ヨリ二里半。村ノ地形。古ハ武家屋
鋪等置レザル以前。東ノ方内藤新宿ノ地差入テ。矢
筈ノ如クナリシ故。村名起リシト云。柏木村ニ傳フ
ル。北條氏ヨリ出セシ文書ニ。柏木角筈小代官百姓
中ト記シ。北條役帳ニモ。本住坊寺領十二貫文。柏木
角筈共ト見エタリ。古ハ中野郷ノ唱アリシ由。十二
所権現ノ縁記ニ載タリ。戸數百八。東西十五丁。南北
八丁許。東ハ内藤新宿。西ハ幡ヶ谷村。南ハ千駄ヶ谷。代々

木ノ二村。北ハ成子町。淀橋町十リ。古ヨリ御料所夕
 リシヲ。寶永四年。元地元保十一年ノ事トス。下駒込村ノ傳ニハ。享保四年
 ノ二度ニ。湯嶋麟祥院領。万治元年。神谷又五郎。寛文
 十一年。御單等同心給地。明レ十二年。牛込宗叅寺領
 ニ賜ヘリ。是皆元地御用トナリシ。替地トシテ賜ヒ
 今ニ替ラズ。其餘ハ御料所ナリ。正保ノ御帳ニ。御料
 ノ外。高六斗飯田又左衛門屋敷ト見ユ。今ハ傳ヘズ。
 檢地ハ延寶二年。中川八郎左衛門。關口作左衛門改
 ノ。同四年。兩宮勘兵衛。清野與右衛門ノ二人。麟祥院
 領ヲ糾セリ。享保十七年。少許ノ新田アリ。寛播磨守

糾セリ。用水ハ十二所。推現ノ傍ナル溜井ヲ用ユ。村
 ノ南境ニハ。甲州道中係リ。北ニハ青梅道通セリ。又
 村内多聞院長樂寺ノ二門前ハ。町並トナリ。延享三
 年。町奉行支配ニ属ス。

高丸場 村ノ西ヨリニアリ。

小名

多聞院門前モリ 長樂寺門前モリ
 以上ニケ所ハ。御府内ノ部ニ出セリ。
 角筈ツノ 新町ニ 甲州道ニ添タル家並ヲ云。百
 姓町屋ナリ。代々木新町等ト相對セリ。

淀橋町 青梅道ニ邊スル家並ヲ云。百姓

町家ナレド。柏木淀橋町ニ對スルヲモ

テ此名アリ。

鷹番前 村ノ西邊ニテ。延寶二年ノ頃。爰

ニ御飼付ノ鳥番所有シ故。此名アリ。

鷹番裏 鷹番所ノ後背ヲイハリ。

原 町裏 本村

谷島耕地

玉川上水堀 村ノ南境ヲ流ル。幅二三間。

神田上水堀 村ノ西北ノ境ヲ流ル。幅五間。或ハ七

八間ニ至レリ。

助水堀 村ノ北邊ヲ流ル。コハ玉川上水ノ分水ニ

テ。神田上水ノ助水ナリ。淀橋町へ次ゲリ。幅四五

尺。此堀ニ傍テ幅五尺餘ノ道アリ。御成道ト唱

溜井ニ一八村ノ南熊野社ノ傍ニアリ。廣サ堅百

二十六間。横南方ハ八間。北ニ至テハ二十六間許。

上ノ溜井ト云。此中蛇池ト唱フル所。常ニ冷水涌

出シ。水色碧ニ漲レリ。コハ熊野ノ御手洗ト唱

フ。往昔中野長者無量陰惡ノ報ニ由テ。一子ノ愛

女蛇身ニ化シ。庭中ヲ匍匐委蛇セシガ。平地忽ク
穿テ。水漲リ淵トナレリ。因テ蛇池ト號スト。熊野
縁起ニ載タリ。一ハ下ノ溜井ト號ス。上ノ溜井ノ
北ニテ。堤ヲ隔ツ。則上ノ溜井ノ分水ナリ。廣サ堅
五十間。横七八間ヨリ。十六間許ニ至ル。世ニ十二
可ノ池ト稱スルモノ是ナリ。

瀧 熊野社ノ東境ニアリ。則前ニ云助水堀ノ内ニ
アリ。長ニ間餘。幅三尺許。

淀橋 北ノ方青梅道ニテ。神田上水ニ架セリ。長十
間。當村及柏木村。多磨郡中野村。本御村等入會ノ

地ニテ。中野村ノ進退ナリ。

熊野社 十二所権現ヲ勸請セラル以テ。此邊ノ地

名ヲ十二所ト呼ブ。本地正觀音ナリ。別當ハ多磨
郡本御村成願寺ナリ。縁起ニ云。應永ノ頃。鈴木九

下某ト云モノ。紀州藤代ヨリ中野ノ御ニ來住ス。
鈴木三郎重家ノ子孫ニテ。殊ニ若一王子ノ祠官

タル餘胤ナリ。依テ假ノ小社ヲ創建シテ。先若一
王子ノミ勸請シケルガ。同キ十年。宮社ヲ再造シ

テ。十二所ノ神志ク備レリ。夫ヨリ日夜崇信オコ
タラザリシ驗ヤアリケン。終ニ家富ミ倉廩軒ヲ

並べテ。榮名アリ。ヨリテ御民舉テ中野長者ト稱
ス。其後逢ノ星霜ヲ歴テ。僅ニ里長某が進退セル
社ナリシヲ。日頃崇敬ノ餘リ。菩提寺成願寺ト議
シ。且村民共ニ願上テ。享保年中成願寺奉祠ノ宮
トナセシヨリ。更ニ修造ヲ加ヘテ。四觀ニ復スト
云。
供所社ニ向テ左ニアリ。丘ノ下ヨリ造リシ樓
ニテ。樓上平地ニ接シ。且前ニ假山水ノ設ケテ。
イト風雅ナル營作ナリ。供所トハ稱スレド。其
實ハ成願寺隠棲ノ菴ナリ。春秋ノ頃ハ。遊賞ノ

人尋來モノ多シ。

末社 稻荷

辨天社 本鄉村成願寺持。下同ジ。

第六天社

多開院 新義真言宗。江戸大塚護國寺末。金剛山慈

願寺ト號ス。開山述譽ハ。寛永元年五月五日寂ス。

開基ハ村内名主傳右衛門先祖與兵衛ニテ。法名

天雪曰滿ト云。明暦四年六月十日死ス。本尊地藏

ヲ安ス。

稻荷社

門前町屋、間口十四間、百五十四坪。

長樂寺 同宗。多磨郡中野村寶仙寺末。六所山長命院ト號ス。當寺モ多聞院ト同ク。與兵衛ノ開基スル所ナリ。開山賴音。慶安三年十二月廿九日寂。本尊不動ヲ置。寺傳ニ當山ヲ六所ト號セルハ。昔亂有院殿府中六所へ御參ノ時。タマク當寺へ成ラセ給ヒシヨリ。名付シ由イヘド。イト牽強ノ説トオモハル。元ヨリ據トスベキモノナケレド。其頃賜ヒシ御筆ナリトテ。横物ノ掛軸ヲ寺寶トス。縮字シテ左ニ出ス。

心一張弓勢

定天下

心三尺劍光

安國寺

稻荷社

六所愛宕合社

地藏堂

聖天堂

門前町屋

間口二十八間。二百二十四坪。

小栗直之丞抱屋鋪 高三石一斗。

牧野播磨守抱屋鋪 高十二石七斗。

秋元左衛門佐抱屋鋪 高八十七石三斗餘。

堀又十郎抱屋鋪 高四石八斗餘。

松平中務太輔抱屋鋪 高三十三石七斗餘。

平賀三五郎抱屋鋪 高二十九石一斗餘。

釣月尼抱屋鋪 高一石七斗五升。此尼、京都北野

導故寺ノ弟子ニテ。耕雲軒ト號ス。則、ニ居住

セリ。

山口道成抱屋鋪 高十八石六斗五升。道成、稻垣

信濃守醫十リ。

大平榮助抱屋鋪 高十二石。榮助、遠藤但馬守家

臣十リ。

柏^{カシハ}木^ギ村

柏木村ハ。村内圓照寺境内櫻ハ。長元年中柏木右衛門佐頼季ト云者植シ由。カタクコノ村名ヲ負ヘリ。十ト。土人云傳ヘリ。圓照寺櫻樹ノ條見ルベシ。小田原役帳ニ。本住坊寺領十二貫文。柏木角筈共ト載セ。村民木工右衛門ガ藏セル。北條氏ヨリ出セル文書ニモ。柏木角筈ト記タリ。其文ニ。

定

一 於南乃不撰侍凡下り就其國之申初之石
仕者撰其名之記事一但去人

一 此道具已り其器之在り内河蔵之に在り
但此竹柄之と木柄之と二より撰之有る
物之号權門之及不致其後者或商會細工

人款中之事切之記事

一 腰之類之記之或者之也之類之類之
一 之者之撰抄之其自之者之其之南之
一 小代及何何之者之切頭事
一 此是廻之然如塔者信之其下之記之

御入国ノ後。伊丹順齋ノ知行ナリシヲ。寛永十一年。
湯島麟祥院領ニ賜ハリ。寶永三年。雨宮勘兵衛。清野
典右衛門。檢地セリ。日本橋へノ行程ハ。前村ニ同ジ。
又村内町並トナリシ地。段別六町六段五畝。延享二
年。町奉行支配ニ属シ。成子町淀橋町ト唱テ。

小名

成子町

淀橋町

以上二所。御府内ノ

條ニ辨ス。

本村

蜀江山

二家

神田上水堀村ノ西北ヲ流ル。幅五間許。

鐘明神社 村ノ鎮守ナリ。平将門滅亡ノ後。其鐘ヲ

祭リシト云。或ハ秀郷着領ノ鐘ヲ祭リシトモ云

傳フ。圓照寺持。下同ジ。

末社 稻荷 三峯

天神社 寛文中。本社ヲ成子町へ移シケレバ。コ

コハ元天神ト云。

圓照寺 新義真言宗。田端村與樂寺末。醫光山瑠璃

光院ト號ス。本尊不動ヲ置。慶長年中。諸堂焼失シ

テ。記録モ皆失ヒケルユヘ。開山開基等スベテ古

キコトヲ傳ヘズ。春日局施主トナリテ。再建スト

云。

寺寶

蛇骨

來由詳十ラズ。

金、鈴

安永年中境内ヨリ堀出ス處十リ。

葵御紋付食籠

一組

同茶碗

一

同香爐

一

以上三品ハ尾張大納言光友卿、簾中。千代姫

居ヨリ御寄附ト云。

藥師堂

本尊ハ行基ノ作ナリ。

閻魔堂

鐘樓 鐘ハ寛政二年ノ再鑄ナリ。

右衛門櫻 藥師堂ノ前ニアリ。古木ハ枯テ。後ニ

植ヲギシモノナリ。正保改ノ國圖ニモ載タレ

ハ。其項既ニ名高カリシ事シラレ。往昔

後一條院ノ御宇。柏木右衛門佐賴季ト云人ア

リ。始ハ乙葉三郎ト稱ス。父ハ河内守賴信トイ

ヒ。母ヲ手琴ノ尼公ト稱ス。賴季長元三年。上総

今平忠常。陸奥権今忠頼兄弟ヲ追討セル賞ト
シテ。角苔柏木ノ地ヲ賜ハリ。則此處ニ館ヲ構
ヘテ住居セシ時。午ヅカラ植タル櫻ナレバ。ノ
ノマ、右衛門櫻ト名付レ由。右衛門櫻物語ト
云モノニ載タリ。サレド此書ハ後人ノ手ニ成
テ。事ヲ巧ニ綴リシナレバ。元ヨリ證トナスベ
キモノニハアラズ。現ニ紫一本ニハ。柏木村ナ
レバ。右衛門櫻ノ名ヲ得シナラントノミ記シ
タレバ。天和ノ頃既ニ傳ヘノ慥ナラザリシ事
知ラズ。或云。此地近キ處ニ。武田右衛門ト云人

アリテ。コノ櫻ノ古木トナリシヲ憂ヘ。接木ト
ナシ裁ツギシ故。此名アリト。兎角椽トスベキ
モノナシ。萬治寛文頃ハ。木モ盛リニシテ。游賞
ノ者多カリシト云。

石川主水正抱屋鋪 二段四畝四步。
三上筑前守抱屋鋪 八畝十二步。
別田勝五郎抱屋鋪 一町三段二十七步。
磯野内記抱屋鋪 五畝二十四步。
隣祥院抱屋鋪 四町一段六畝十九步。

東大久保村

東大久保村ハ。日本橋ヨリ二里餘。古老ノ説ニ。古ハ
當村及西大久保諏訪ノ三村皆戸塚村ニ通レテ一
村ナリ。當時文字モ富塚ト記セレト云。然ドモ正保
ノ改ニハ大久保ノ一村ノ之取テ餘ノ地名ハ収メ
ズ。元禄ノ圖ニ大久保村ノ傍ニ同村枝郷東大久保
村及枝郷諏訪村ト記シ。又戸塚村ヲモ載ス。推考ス
ルニ元来ハ富塚村ノ之ナリシヲ。一旦大久保ト改
メ。元禄ノ前又各村ニ分レシナラシ。又大久保ヲ東

西ニ分ケレハ天正十九年ノ繩ヨリナリト。西大久保ニ傳ヘタリ。サレバ村名ノ沿革ノ官ニ達スル所ハ右ノ如ニシテ。土地ニテハ天正十九年ノ繩ヨリ東西大久保ノ唱始終變ゼザルニ似タリ。家數八十。七。北ハ尾張殿別業戸山屋敷ニ接シ。其餘ハ武家屋敷及大繩組屋敷ニテ惟西ノ方ノ之西大久保及諏訪村ノ飛地ニ隣レリ。東西十丁餘。南北六丁餘。内藤新宿ヨリ流来ル細流アリ。又此地ニモ所々ニ清水アリテ用水ニ沃ク。今當所府内ニ雜揉セルヲ以古ノサニハ多ク變革セリ。其始末ハ天正十九年。

東照宮四ツ谷邊ニ狩シ給フ時。大葺筥組ノ頭神原小兵衛ヲ召テ。此近鄰ニテ組ノモノ廿五人ノ給地。及屋敷ヲ賜ハル。間口ヲ狭ク裏行ヲ長ク賦與スベシトナリ。是ハ翌年宮高麗陣ニ立セラレベキニヨリ。同心等遠國ニ供奉シ。跡ニ留テレル妻子ノ足弱共。隣家密比セハ。心強カレベシトノ御遠慮ナリ。枳宅地裏ノ方ニ町家ヲ作ルベキノ旨。御内慮ニテ。高人ヲ置ク。是江戸武家屋敷ニ。市店ヲ作ルノ始ナリ。其時給地ハ。伊奈半十郎ニ預ケラレシガ。當時土民ニ乏シカリケ

レバ。荒地アリテ。翌年
東照宮中野村ニ鷹狩セラレシ時。又柳原小兵衛供
奉シケルニ。組ノ者ノ知行所何處ゾト尋ラレ。此地
ニ續ケル由。對奉ケレバ。鷹場ニハ如何アラントノ
仰ニテ。則經歷セラレ。田野ノ闢ケサルコトヲ問ハ
セラレ。百姓之カラニハ。小給ノ輩ナレバ。年作ニ
セヨト仰ケリ。今御料所。及玉藥同心等ノ大繩給
地ニシテ。朝夷金兵衛。都筑金三郎。若山源次郎。成田
克右衛門。篠塚甚右衛門。安岡定四郎。竹内源之丞。細
倉惠兵衛。池田早之丞。朝夷左内。菅野津太郎。石井吉

之物。森佐太夫。露木七郎次。松山太七郎。杉山藤藏。手
島外十郎。池田爲三郎。横山孫次。右衛門。鈴木半次郎。
三浦莊藏。内山新三郎。江波戸良助。行岡策次郎。長谷
川傳吉。茶田爲三郎。谷藤右衛門。堤官兵衛。田中孫太
夫。鈴木四郎兵衛。加用留吉。藤田爲五郎。佐藤八右衛
門。高野金次郎。鈴木莊左衛門。以上三十五人ハ。出身
レテ。旗下ノ士ニ列シ。或ハ他ノ職ニ居ルモノナリ。
サレド。給地ハ。故ノ如シ。又菅沼十藏。岩田周作。野村
九兵衛。船場幸吉。服部平左衛門。齋藤礼助等ノ六人
ハ。元ノ如ク玉藥組同心ナリ。此餘朝夷源次郎。木原

忠助。小林彦十郎。高野伴次郎。今井政右衛門。川村鐵
 五郎。岩田勘藏等ノ闕地ハ。御料ニ属セリ。檢地ハ天
 正ノ後。天和年中改スリ。又村ノ東北若子ノ處。砂利
 取場御用地トナリ。後墾闢シテ。砂利取場跡新田ト
 號シ。享保十七年。寛橋磨守檢地シテ。御料ニ属ス。今
 村ノ地府内ニ接セルヲ以。比屋高店ヲ開テ。或ハ藝
 圃アリテ。庭樹ヲ生植ス。村北ニ奥州ノ古街道アリ。
 田畑ノ間ヲ戸山ノ方ニ達ス。
 高札場 東北ノ方ニアリ。
 小名

橋場

繩手

相ノ家

高場臺

大笠

久左衛門坂 村ノ中程ニアリ。登リ四五十間。下同
 シ。
 ハシゴ坂
 鏡ノ井 乾ノ方奥州古街道ノ傍。田間ノ小流ヲ云。旱
 魃ニモ水涸ルコトナシ。
 天神社 村ノ鎮守ナリ。棗ノ天神トモ。西向天神ト
 モ號ス。安貞年中。梅尾山明慧上人。東國ニ五大尊
 寺ヲ興營セシテ。菅家自作ノ像ヲ懷口ニシ

下向シテ。先當所ノ郷民ト議シ。祠ヲ建テ鎮護神トス。其後天正ノ頃。兵火ニ罹リ。灰燼トナリシ時。不思議ニ尊像ノミ淡間ノ樹上ニアリ。郷人等奇異ノ思ラナシ。青山將監ト云者ト。カラ戮テ更ニ經營セルモ。則今ノ社頭ナリ。一年聖護院道晃法親王。東國經歷ノ時。法印元信ニ命ジテ。当社ノ別當トシ。社宇ヲ修補シテ。頗古ニ復スト云。例祭ハ隔年六月二十五日。末社孔雀明王。縮荷。辨天。白太夫社。石尊。神明。秋葉。

淡間

寶篋塔 春日局別荘ニアリシヲ。後ニ當社ニ寄

附スト云。

瑞現櫻 兵火ノ頃。神躰飛行シテ止リシ木ナリ

ト云。古木ハ枯テ近キ頃植ツゲリ。

別當大聖院 本山派修驗。京都聖護院末。梅松山

五大尊寺ト号ス。世々正大先達職ナリ。本尊不

動。寺寶ニ太刀一振アリ。猫丸ト稱ス。由來詳ナ

ラズ。

紅血塚 塚ハ崩レテ斷碑ノミアリ。文字湮滅

シテ讀得ズ。世俗ニ語り傳フル。紅、血、欠、血ノ
舊蹟ナリト云。且太田道灌狩シテ雨ニ遇シ
項、少婦ノ山吹ノ枝ヲ折テ、ミノヒトツダニ
ナキ心ヲサトセシト云傳フルモ、カノ紅血
カ所爲ナリナド。所會シテイヒ傳ヘリ。
辨 天社 童形ノ像ナリ。弘法大師ノ作。縮荷淡島ヲ
相殿トス。當所ハ元祿ノ頃、天小屋ヲ建ラレシ地
ニテ。其頃ヨリノ小社ヲ、後村民等願上テ再建ス
ト云。
別當ニ尊院 新義真言宗。愛宕圓福寺地。中金剛

院ノ末。兩寶山ト號ス。本尊ハ日ヲ置。
專念寺 淨土宗。京都知恩院末。佛願山正定院ト號
ス。本尊阿彌陀。開山茂天。寛文六年正月二日寂ス。
專福寺 淨土真宗。東本願寺末。白蓮山ト號ス。本尊
阿彌陀。惠心ノ作ト云。開山宗泉。寛文七年五月八
日寂ス。
鐘樓 享保十七年鑄造ノ鐘ヲカク。
永福寺 禅宗曹洞派。牛込萬昌院末。大久山ト號ス。
本尊釋迦。開基尊悅。慶長十五年五月十七日寂ス。
藥師堂 藥師ハ慈覺大師ノ作。

法善寺 法華京池上本門寺末。春時山ト號ス。本尊
 釋迦多寶。開山日相。貞享四年八月五日寂ス。中興
 開基松平伯耆守綱清。正徳元年七月四日卒ス。法
 號清源寺良宗常温。

什寶

大黒天像

日蓮作

消息

同筆

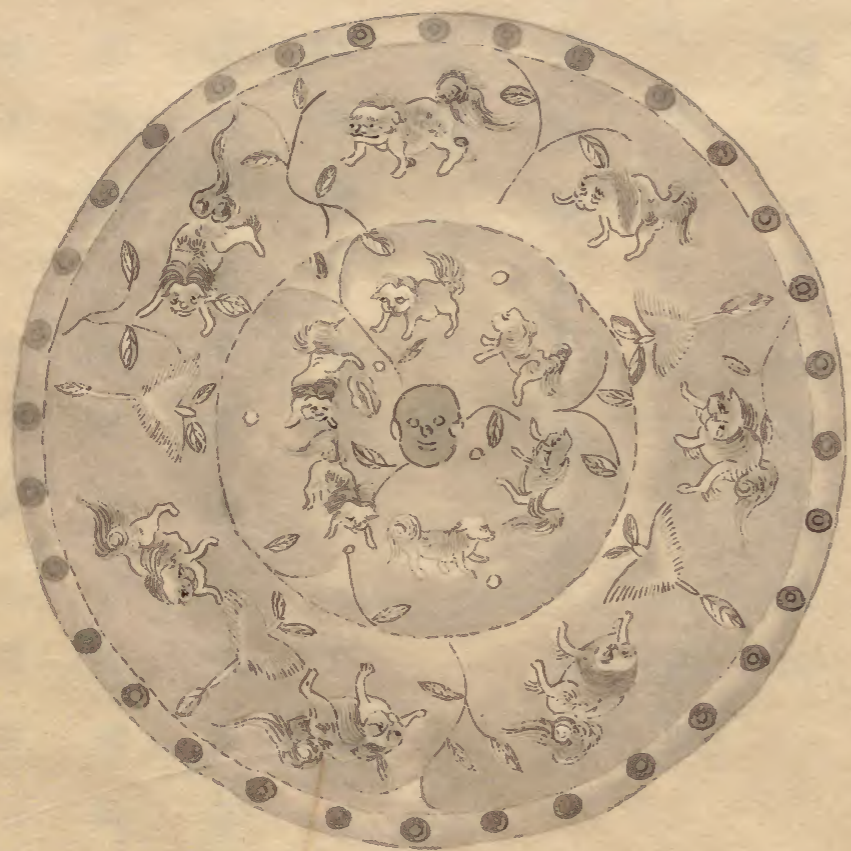
古鏡

一 軀

二 幅

一 面

圓徑七寸。七面社建立ノ時。境内ヲ掘テ得タ
 リ。裏面ノ圖左ノ如シ。



源氏物語抜書

一卷

後陽成院宸翰ヲ始トシテ。八條知仁親王。近衛三藏院殿。青蓮院尊純法親王。曼珠院良恕法親王ノ筆蹟ナリ。

七面社 稻荷社

鐘樓 延寶八年鑄造ノ鐘ヲカク。

尾張殿抱屋鋪 二千八百七十八坪。

酒井采女抱屋鋪 二千四百三十坪。

新莊鹿之助抱屋鋪 千三百九十二坪。

安藤増五郎抱屋鋪 七十坪餘。拜領屋鋪ニ抱漆へ

間瀬權右衛門抱屋鋪 二千六百十三坪。

丸山勝五郎抱屋鋪 二千二十坪餘。

木部茂十郎抱屋鋪 六百八十四坪餘。

土井總兵衛抱屋鋪 三百三十坪。

井上半次郎抱屋鋪 二百坪。

伊藤傳左衛門抱屋鋪 千二百五十坪。

旧家者理石衛門名主ヲ勤ム。中村ヲ氏トシ。家系

一卷ヲ藏セリ。其畧ニ。先祖七右衛門信時ハ。佐々

木近江守源氏信十二代ノ孫。中村外記信高ノ二

子ナリ。寶徳二年四月二日死ス。其子信義。一ツ七
右衛門ト稱シ。文明三年九月二十八日死ス。其子
高信。其子政信。其子政利。々々信定ヲ生ム。信定七
郎右衛門ト稱シ。慶長三年死セリ。此時民間ニ下
リ。九代ニシテ。今ノ理右衛門ニ至レリ。
同五郎右衛門家傳ニ據ニ。豊島郡牛込今東大久
保村。天正十九年。玉藥同心五十人ノ給地トナリ
シ時ハ。百姓長兵衛。七右衛門。久左衛門。三四郎等
總ニ四人ノミナリ。當時宅地及水陸ノ田ハ。今ノ
尾張殿戸山別業ノ内ニテ。敬公彼別業ヲ賜ハリ

給ヒシ頃。四人皆砂利場ニ移住スト云。五郎右衛
門ガ先祖長兵衛子ナカリシニヨリ。養子ヲ迎フ。
是モ後ニ長兵衛ト改ム。此人實ハ青山常陸介忠
成ガ落胤ナリト。系圖ニ載ス。又家傳ニ。忠成ヲ伯
耆守忠俊ガ嫡子ト云ヒ。又長兵衛ヲ。忠俊ガ丹波
國笹山城ニ塾居セシ間ノ落胤ノ如ク記ス。系圖
ト合ハズ。按ニ寛永譜ニ據レバ。忠成慶長十八年
二月卒スルニ至ルニテ。罪蒙リシ事見エズ。忠俊
ハ元和九年。御氣色ヲ蒙テ。房州大多喜城ニ移
サレ。後又相模國高坐郡今泉ニ退居セシ事ヲ載

ス。然レハ忠俊が落胤ト云モノヲ得タリトセン
カ。後ノ長兵衛が長子ハ。小石川善仁寺ノ養子ト
ナリ。ニ男五郎右衛門。父ノ遺跡ヲ繼テヨリ。數代
相續シテ。子孫今ノ五郎右衛門ニ至ルニテ。青山
ヲ氏トス。元祖ノ長兵衛。姓氏ヲ知ザル故ナラン。
其餘三人ノ子孫ハ。今聞ユル事ナシ。

西^{ニシ}大^{オホ}久^ク保^ボ村

西大久保村ハ。家數百十七。分村ノ年歴。江戸ノ行程。
檢地。及當村内ニ手作場ト稱スル處アル類ノ由來ハ。
前村ノ條ニ辨ゼリ。村ノ廣サ。東西六丁。南北七丁許。
東南ノ方ハ。東大久保村。西ハ百人組ノ屋鋪。北ハ諏
訪村ナリ。天水ヲ待テ耕植ス。當村古ヨリ御鐵炮玉
藥組及同筋ヨリ上ラレシ者ノ大繩給知ナリ。コレ
モ詳ナルコトハ。前村ニ辨ズ。
高札場

小名

御^ノ葦^シ苜^ス町^チ

新^シ田^ジ町^チ

稻荷社

諏訪村諏訪明神ノ末社ナリシヲ。萬治年

中當所へ移^レセシト云。大衆院持。

全龍寺

禪宗曹洞派。多磨郡中野村成願寺末。海龜

山ト號ス。開山鐵雙。寛永年中ノ建立ト云。本尊釋

迦。

白山社

閻魔堂

鐘^ノ棟^ノ貞享年中鑄造ノ鐘ヲカク。

大衆院 當山派修驗。青山鳳閣寺配下。本尊不動。

諏訪村

諏訪村ハ。村内ニ諏訪社アルヲ以テ名トセリ。土俗
私ニ諏訪谷村ト唱フルハ。谷々多キ故ナリト云。元
禄ノ改ニハ。大久保村ノ枝郷諏訪村トアリ。分村ノ
事ハ。東大久保村ニ辨ズ。家數十。東ハ下戸塚村。西
ハ戸塚村。南ハ西大久保村。北ハ源兵衛村ニテ。東西
四丁。南北ニ丁。此餘東大久保村ノ内ニ飛地アリ。江
戸ノ行程等。前村ニ異ナラズ。當村モ古ヨリ玉薬同
心。及其筋ノ者。大繩給地ナリシガ。後木原忠助。小林

彦十郎。二人ノ給知上リ。御料入會ノ村トナ
レリ。

高北場 村ノ中程ニアリ。

諏訪社 八幡辨天天滿宮不動藥師觀音ヲ相殿ト

ス。當村及戸塚村。大久保百人町。西大久保村等ノ

鎮守ナリ。例祭九月二十七日。縁起ハ附會ノ説十

レハ畧ス。

末社 上諏訪 下諏訪

神樂殿

別當玄國寺 新義真言宗。大塚護國寺末。古ハ多

唐郡中野寶仙寺ノ末ナリシガ。元祿九年今ノ

末ニ属セリ。龍池山上珠院ト號ス。本尊阿彌陀。

長七尺許。行基ノ作。慶長六年ノ起立ニシテ。延

寶年中盛源中興ス。

寺寶

玉

一顆

安産與樂ノ玉ト稱ス。相傳フ此玉始北條

遠江守時政。其子相模守義時ノ妻難産ノ

時。江島辨財天ヘ奉籠シテ感得シ。其加護

ニ依テ平産アリシ處ナリ。其後庵原左衛

門尉頼景ニ授ケ。代々相傳セシニ。遂ノ後
享保年中。遠孫上原好右衛門吉重ト云者。
岡野備中守恒成ノ家人タリシ頃。故有テ
此玉窓々ニ御本丸御用トシテシバク
奉リ。其時々白銀十ド賜ハリシトナリ。吉
重ノ孫茂右衛門某ノ時。寶曆十四年。祖縁
ノ因ヲ以テ。當寺へ寄附レ。其後イカバノ
故ニヤ。一旦上原方へ返リシヲ。寛政十年。
子孫遠藤備前守ノ家人三郎右衛門ト云
者。再ヒ寄納スト云。玉ノ寄附狀。及縁起上

原氏ノ系譜ヲ添。譜中ニモ玉ノ傳來具ニ
載タレド。信ズベキ事實モアラザレバ。コ
コニ畧ス。

鐘樓 享保八年鑄造ノ鐘ヲカク。

聖天堂

地藏堂 土屋地藏ト號ス。石像ナリ。源兵衛村

ニ接セル。土屋甚助ノ下屋鋪ヨリ掘出セシ
ヲ。コ、ニ安ス。故ニ此名アリ。

戸塚村

戸塚村ハ。日本橋ヨリノ行程。前村ニ同ジ。下戸塚村
ニ對シ。土人ハ上戸塚村ト唱フ。古ハ近村ノ總名ニ
テ。富塚ト書シニ。後各村ニ分レシ頃。今ノ字ニ改ム
ト云。サレト小田原役帳ニ。太田新六郎知行内寄子
衆配當。十一貫五百文。江戸戸塚内山中分。及恒岡彈
正忠五百文。江戸牛込之内富塚ト載セ。又長祿江戸
圖ニモ。牛込村ノ邊ニ。富塚村。及山中分ト云モノア
レバ。富戸唱同ジキヲ以テ。當時互ニ記セシナラシ。

カク古キ村ナレド。正保ノ改ニ載セズ。當村アルベ
キ邊ニ。大久保村ノミヲ記シ。元禄ノ改ニハ。戸塚村。
戸塚村ノ枝。御大久保新田。大久保新田。枝。御馬場新
田。大久保村。大久保村之枝。御諏訪村。大久保村ノ枝。
御東大久保村ト載ス。サレバ。中古戸塚ヲ改テ。大久
保村トシ。後各村トナリシ頃。古名ヲ爰ニ殘シ。文字
ハ。戸ノ字ヲ用エルコト、ハナレリ。家數三十三。東
ハ。諏訪源兵衛ノ二村。西ハ上落合村。南ハ西大久保
柏木ノ二村。及大久保百人組屋鋪。北ハ下落合村十
リ。東西八丁。南北五丁。天水ヲ漑テ耕シ。神田上水ヲ

ミ引次ク。飛地上落合村ニアリ。御入國ノ後ヨリ
御鑓炮玉藥同心輩ノ大繩給地トナリ。其内寛延ニ
年。木原忠助。小林彦十郎。明和八年。今井政右衛門。安
永六年。川村鑓五郎。高野伴次郎等ノ給知ヲ叔公セ
テ。御料所トナリ。其餘ハ同心ヨリ進ミシ輩ノ大
繩給地ナリ。檢地ハ寛文四年。野村彦太夫改ム。又村
ノ中程ニ青梅道係レリ。コハ高田邊ヨリ多磨郡田
無村ハノ脇道ナリ。
高札場村ノ南ノ方ニアリ。

小名

宮田 諏訪村 諏訪社ノ元地ナレバ。コノ

名アリ。

赤井屋 鋪 古へ赤井某ノ屋鋪アリシ所

故カク唱フ。

赤井下 久保田 地田 二階上

市ノ澤 伊勢原 池田 上野臺

二階下 清水上 清水下 原宿

六百免 松原 稻荷前

神田上水堀 村ノ西北ヲ流ル。幅七八間。

神明社 観音寺持。

稻荷社 村持。

観音寺 新義真言宗。大塚護國寺末。大悲山蓮花院

ト號ス。本尊正観音。開基ハカンコウ坊ト云人ニ

テ。俗姓中村氏。故アリテ當所ニ來リ。草庵ヲ營ミ。

遂ニ一寺トナセント云。子孫外記。寛永ノ頃。断絶

ス。其屋鋪跡ハ。今高木伊勢守抱地ノ内ニテ。東大

久保村名主理右衛門モ其一族ナリト云。

薬師堂

高木伊勢守抱屋鋪 二百四十坪。

平岡仁右衛門抱屋鋪 百五十坪。

大久保新田

大久保新田ハ。元禄ノ改ニ始テ載セ。戸塚村ノ枝郷ト記ス。土人ノ傳ニ。當村ノ民戸九軒。寺院共ニ。古ハ今ノ尾張殿戸山屋鋪ノ内。五明ト云ル所ニ住セシガ。寛文十一年。彼攝内ニ入シ時。替地ヲ給ハリ。民戸及寺院モ爰ニ移リ住シ。田圃ハ元ノ如ク。戸塚村ノ内ニ入會ヒタレバ。詳ニハ辨別シ難シカ。ノ移住セシ地ハ。東西二十間。南北三十間許ニテ。西南ノ二方ハ。源兵衛村。東北ハ。下戸塚村ナリ。又元禄圖ニ大久

保新田枝郷馬場新田ト云フ載ス。是高田馬場ニ邊
七ノ地十ノ地。名トセシニヤ。今ハコノ地名十シ。當
村古ハ御料所ニテ。寶曆五年。増上寺領巢鴨村ノ替
地ニ裂キ賜ヒ。又ユレヨリ前享保五年。市ヶ谷自證院
領。雜司ヶ谷村ノ替地トシテ賜ハリ。今ニ御料寺領入
會ヘリ。檢地用水ハ。前村ニ同シ。又南ヨリ西ノ方ニ
板橋宿往還係レリ。
亮朝院。法華宗。甲斐國身延久遠寺末。如意山榮亮
寺ト號ス。縁起云。開山僧日暉ハ。牛込和田登山荒
井山五明村ニ住シ。七面ヲ祀ル。其頃

嚴有院殿ノ老女近江。若君ノ御武運ヲ禱奉ル。
同二年四月。日光御参ノ時。懐中ノ御守トシテ。
一部一卷ノ法華經。及題目ヲ彫リシ短刀。雷除ノ
小刀ヲ献ス。還御ノ後。日暉ニ賜物アリ。同四年
嚴有院殿將軍宣下ノ時。暉ガ献セシ經文ノ表紙
ニ。南無七面大明神ノ七字ヲ御染筆アリ。明暦元
年永ク將軍ノ祈禱所ト定メ給フ印トシテ。
御諱ノ字ヲ記サレ、所ノ御筆ヲ賜ハル。同三年
命有テ七面ノ神躰ヲ御覽ニ入シカバ。頓テ五
明村ニテ方三十間ノ地ヲ賜ハリテ。七面ノ社地

トセラル。同年遂ニ起立シテ一寺トナリ。身延末
ニ属シ。山號寺號今ノ如ク定ム。院號ハ暉カ舊號
ヲ用エト云。寛文七年三月二十二日。暉寂テ日純
繼ク。同十一年。境内御用地トナリ。尾張殿ニ賜ハ
ルニ及テ。代地ヲ今ノ所ニ賜フト。本尊三寶ヲ安
ス。
鐘樓 元禄十五年造立。同年六月十九日ノ銘文
ヲ雕ル。
七面社 神躰ハ身延七面ノ像ト同木同作ナリ。
初戸山ニ在レ頃。明暦三年此像ヲ御覽ニ入

シニ。御信仰ノ餘リ。再ビ社地ヲ旧地五明ニ賜
ハリ。堂宇御建立ヲ命セラレ。工就テ大城ヨ
リ神躰ヲ移サレ。御紋ノ戸帳水引挑灯等ヲ賜
ハル。當所ニ遷リシ後モ。元禄十四年三月。大夫
人 桂昌院殿参詣シ給ヒ。其後モ二度マテ詣
テ給ヒレト云。
釋迦堂 釋迦ハ銅像ナリ。享保八年造立。堂ハ同
十年ニ至テ成。
有徳院殿ノ御時。陀羅尼萬卷ノ祈禱ヲ命セラ
レ。御紋ノ戸帳水引挑灯ヲ寄附セラレ。

祖師堂 日蓮像五尺八寸。朝日祖師ト號ス。又日
朝像ヲ安ス。

夾山寺 禪宗曹洞派。駒込吉祥寺末。海壽山ト號ス。

古ハ真言宗ノ古跡ニテ。五明村ニアリ。正保ノ頃。

廢セシテ。慶安元年。本寺十二世ノ僧。同安洞察再

興シテ改宗シ。海壽山夾山寺ト號ス。故ニ洞察ヲ

以テ開山トス。萬治二年四月二十日寂ス。其後寛

文十一年。前寺ト同ク此所ニ替地ヲ賜ハリ。本

尊釋迦行基ノ作ト云。

御嶽社 當村ノ産神トス。今モ戸山屋鋪ニ御嶽

社跡アリ。

稻荷社

宗傳寺跡 除地百九十三坪アリ。當寺モ元戸山ノ

内ニアリテ。寛文ノ度ヨ、ニ引移リシニ。寶永五

年寄進地中里村へ引テ。今ニ其地ニ存ス。

深津彌七郎抱屋鋪 五畝。

武藤庄兵衛抱屋鋪 六畝九步。

源兵衛村

源兵衛村ハ。元戸塚村ノ内ナリ。彼村民源兵衛ト云
モノ開發セシ所ニテ。其村内ノ小名タリシガ。元禄
以後別村トナレリ。源兵衛ノ子孫ハ。今ニ村民タリ。
江戸ヨリノ行程ニ里ニ足ラス。東西六丁。南北五丁
許。戸數二十八。四境東ハ下戸塚村。南ハ諏訪村。西ハ
戸塚村。北ハ神田上水堀ヲ隔テ。下高田村ナリ。天水
ヲ待テ耕植ス。古ヨリ御鑲炮玉藥同心。及其筋目ノ
モノ、大繩給地ナリ。

神田上水堀 村ノ北ヲ流ル。幅七間許。

神明社 村ノ鎮守ナリ。下高田村金象院持。下持同

ジ。

末社 天王 稻荷 辨天

諏訪社

松平志摩守抱屋鋪 一町七段六畝。

伊藤彌平太抱屋鋪 一町六段七畝。

富田宮内抱屋鋪 一町二步。

松平市正抱屋鋪 六段一畝二十步。

武藤庄兵衛抱畑 四段二畝十四步。

土屋甚助抱屋鋪 三段五畝二十五步。下屋鋪ニ續

ケリ。

下戸塚村

下戸塚村ハ。江戸ヨリ行程一里半。家数五十一。東ハ早稲田村。及開口町耕地。南ハ尾張殿戸山屋鋪。及牛込馬場下町。西ハ源兵衛村。北ハ神田上水堀ヲ隔テ。下高田村。東西六丁。南北九丁。當村正保三年。牛込濟松寺領ニ賜リ。今ニ然リ。戸山屋鋪ヨリ出ル小流ヲ用水トス。村ノ西ニ係ル往還ハ。牛込邊ヨリ雜司ヶ谷へノ道ニテ。道ノ北界ヲ奥州ノ古道ト云。元禄十五
年。伊奈半左衛門。今井九右衛門檢地ス。又町並ト

リシ。村内放生寺門前ハ。延享二年。町奉行支配トナリ。

小名

放生寺門前。御府内ノ部ニ出ス。

石田前。首石田某住居スト云。

山吹里。馬場ノ北茶店ノ後ノ方ヲ云。文

明年中。太田道灌狩ニ出シ時。急雨降リ

出シカバ。農家ニ立寄。雨具ヲ借ントセ

シニ。其家ノ小女。山吹ノ花ヲ折テ出セ

リ。道灌其意ヲサトラズシテ歸リ。後此

事ヲ近習ノ士ニ問フニ。七重八重花ハ

サケドモ山吹ノ。エノヒトツダニナキ

ガカナシキトイヘル。古歌ニモトヅギ。

蓑ダニアラヌト云ヲ諷セシナラント

答ヘケレバ。道灌ハジメテ其意ヲサト

リ。夫ヨリ歌道ニ心ヲトミメ。後彼小女

ガ事ヲ賞シテ。コノ所ヲ山吹ノ里ト名

付シナド云俗話アレド。慥ナラズ。

松原

虎井山

椿山

三嶋上

三嶋下

高田馬場村ノ西ニアリ。東西百八十間。南北ニ

六間餘。南ノ方ニ御馬見所蹟アリ。此邊元廣キ芝野ニテ。越後少將忠輝御ノ母公。高田殿遊覽ノ地ナリシカバ。馬場トナリシ後モ。カク唱ヘリ。鄰村高田ノ故ニ負ヒシ名ニハアラズトイヘド。詳カナル事ハナシ。按ニ寛永日記ニ。十三年三月五日。高田ニ馬場ヲ築ベキヨレ仰アリシカバ。ヤガテ此地ヲ擇ミ。幾程ナク馬場成シカバ。將軍家モ。没御アリ。旗下ノ諸士左右ニ分テ鞭打アリトミユ。コハ中頃荒廢セルヲ。更ニ修セラレシナラン。其故ハ。或人ノ記セシ間見隨筆ト云

書ニ。蒲生下野守忠卿ノ家人。佐野大夫ガ買得シ音由ト號セシ名馬ヲ。名徳院殿へ獻ジテ。古龍ト名付給ヒシガ。駿足ニシテ。衆得ルモノナシ。時ニ將軍家高田馬場へ成ラセ給ヒテ。中山勘解由照守ニ命ジテ。是ヲ衆シメ給フ所。殊ニ早馬ニテ。天下ノ人中山ガ馬ノ達者ヲ譽タリトアリ。照守寛永十一年ニ没シタレバ。十三年前既ニ馬場アリシ事明ケシ。又大坂御陣ノ頃。此馬場ニテ馬揃アリ。是ヨリ先。武田信玄小田原北條ヲ攻シ時モ。嘗

所ニテ馬ヲ乘シナド云傳ヘタリ。十三年築立以
後ハ。籓下ノ士ヲ馬ヲ習ヘル地ニ定メ置レシガ。
寶曆ノ頃ヨリ。一圓ニ射場トナリテ。馬場ハ騎射
ノサクリノミ殘レリ。又當所ニテ流鏑馬ノ式ヲ
興行アリ。コハ元八幡宮へ御奉納ノ為ナリ。同社
ニ藏スレ流鏑馬圖ノ奥書ニ。右流鏑馬ニ軸者。今
茲戊午春二月初卯日。為元八幡神事。於高田馬場。
所行之圖也。此蓋去歲中當
竹千代君御降誕前。因御願兼有御催。公事繁劇延
及今春也。既而君有御降誕。遂被催報賽。其事

者小笠原常春。御命令門人若干人勤之。當日射
儀。岡本豊久門生等圍而所上也。元文三年歲次戊
午冬十二月トアリ。其後モシバク其式アリ。當日
御名代出座アリテ。射儀最嚴正ナリ。馬場ノ外ニ
埒ヲ設ケ。貴賤ノ見物群集セリ。又馬場ノ北側ニ
並立ル松樹ハ。享保年中。釣命ニ依テ植サシメ
給フト云。當所ハ除地ニシテ。濟松寺持。
神田上水堀。村ノ北界ヲ流ル。幅六間ヨリ。七八間
ニ至ル。
八幡社。元八幡ト號ス。正八幡ナリ。

神功皇后

仲哀天皇ヲ合祀ス。共ニ大橋龍慶靈瑞ヲ得テ。牛
込榎所ノ古榎樹ヲ以テ彫刻シ。寛永十九年四月
八日。多磨郡中野寶仙寺住僧秀雄開眼セル由裏
銘アリ。社傳ニ云。此所古ヨリ八幡ノ小祠。及び何
彌陀堂アリ。年ヲ経テ荒廢シ。神木ノ老松一樹殘
リシガ。寛永十三年。御持弓頭松平新五左衛門直
次ニ屬セシ同心ノ輩。同心居宅アリ。早稲田ニ宿リテ。彼神木近キ
所ニ的場ヲ築キシニ。其松ニ鳩三羽ツ、宿リテ。
神靈影向ノ瑞アリケレバ。相謀テ。同十八年。石渚

水八幡宮ヲ勸請シ。良昌ヲシテ別當タラシム。依
テ草庵ヲ造營セントテ。山麓ヲ穿テケルニ。一ツ
ノ穴アリ。人々怪シミ。燈ヲ取テ内ヲ伺ハ。銅佛
ノ阿彌陀長三寸許ナレヲ得タリ。是八幡ノ本地
ナレバトテ。則神殿ニ安置シ。今ニ秘佛トスト。寛
永記江戸雀等ニ載レ所モ。社傳ト大同小異アリ。
同年

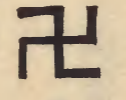
大猷院殿 御放鷹ノ時。當社へ御立寄アリ。此年
巖有院殿 御誕生アラセラレ。又別當良昌兼テ
靈夢ヲ蒙リシ次第ヲ聞召サレ。殊ニ當社ヲ御崇

敬アリテ。慶安元年。本社以下諸堂社ニ至ルマデ。悉ク御建立アリ。其時當山ノ地形ハ。加賀中納言利常寄進シ。其餘ノ諸侯籓下ノ士モ。堂社以下ヲ寄附セリ。明ル二年落成シテ。遷宮ノ式ヲ行ハル。コノ年。巖有院殿御參詣。其後社地ニ能舞臺ヲ造ラレ。大猷院殿成ラセラレ。能上覽有テ。後ニ神事能興行アリ。役者大藏勤ム。御名代柳生但馬守ニ命セラレ。年経テ社頭回祿ノ後。延寶六年御再建アリ。棟札ノ文ニ。

聖主天中天
迎陵頻如聲

為大檀那

征夷大將軍源家綱公御武運長久



奉再興武州豐島郡牛込郷光松山放生寺八幡宮宇御鎮守東照宮並末社等

哀愍眾生者
我等今敬禮

御子孫蕃榮天下恭平五穀成就萬民豊樂所

寺社奉行

松平山城守
板倉石見守
太田攝津守

別當放生寺住持權大僧都宗洗

延寶六年戊午仲冬十五日

御大工棟梁

甲良豊前宗清
同 助五郎宗貞

後人入破ニ及ビ。元禄十六年再ビ御修營アリ。棟
札ノ文ニ。

聖主天中天
迦陵頻伽聲
大檀那
征夷大將軍三位内大臣源綱吉公御武運長久御子孫繁榮所

奉造營武州豊島郡牛込郷戸塚村光松山放生寺八幡宮宇華表ニ基

哀愍衆生者
我等今敬禮
為天下恭平萬民豊樂軀壽堅固長保徳創建

總營建事

從五位下但馬守藤原朝臣秋元氏喬朝
從五位下對馬守源朝臣福垣氏重富

御鎮守

東照宮并社等護摩堂鐘樓堂神輿堂樓門舞臺寺院等

御普請奉行

由淵伊左衛門源重羽
竹田藤右衛門藤原政武
伊藤新右衛門藤原口口
別當權大僧都法印木如
御大工棟梁
大谷甲斐藤原正矩
大谷平次藤原基矩

元禄十六癸未年五月吉日

元文二年。諸堂社助成ノ夕ノ。本所松井町ニテ。千
五百坪ノ町屋鋪ヲ賜ヒ。延享二年。當社祭禮ノ時。
神輿ノ旅所トシテ。牛込神樂坂上ニテ。二千七百
十五坪ヲ拜借地ニ成給フ。此内九百二十坪ハ。近

キ頃御用地トナリ。殘地千五百九十五坪ノ内。千
四百九十坪ハ。麴町ニテ畀地ヲ給ヒ。今神樂坂上
ニハ。總ニ三百坪殘レリ。又元文三年二月九日。
竹千代君御降誕ノ事ニヨリ。當社へ御報賽ノ夕
ノ。高田馬場ニ於テ。流鏑馬御興行アリ。ソレヨリ
以來。御厄年。及

若君様御誕生等ニハ。必當社御祈禱トシテ。流鏑
馬ノ式アリ。又社傳ニ。永承中原頼義。安倍貞任征
伐ノ後。當國豊島郡へ八幡三社鎮座ノ一ナリト
見エタレド。固ヨリ據トスベキ事ナケレバ。爰ニ

ハ載セズ。例祭八月十五日。昔ハ此邊三十六ヶ町
ヨリ。鉾練物等ヲ出シ。牛込神樂坂旅所マデ。神輿
ヲ渡シ。牛込御門外ニテ。天下安全ノ御祈禱修行
セシト云。今ハ廢シテ。社地内ノミノ式アリ。

社寶

御具足

一領

嚴有院殿御召初ノ品ナリ。慶安二年。當社御
造營落成アリテ遷宮ノ時。御寄納アリト云。
外ニ御初時ノ御手遊物ナリトテ。布袋及駒
ノニ物ナリ。

準提觀音

一軀

寶樹院殿ノ御寄納ナリ。

流箱馬繪卷物

二卷

奥書ニ。右流箱馬二軸者。今茲戊午春二月初
卯日。為元八幡神事。於高田馬場所行之圖也。
此蓋去歲中。當

竹千代君御降誕前。因御願兼有御催。公事繁
劇。延及今春也。既而君有御降誕。遂被催報
賽。其事者小笠原常春。仰命令門人若干人
勤之。當日射儀。岡本豊久門生等圖而上也。元

文三年歲次戊午冬十二月トアリ。

大般若經

一部

慶安御造營ノ時。松平外記寄附スル所ナリ。
此項松平長門守モ。祭禮旗十二流ヲ寄進セ
レガ。今ハ損失セリ。

東照宮 慶安元年。本社御造營ノ時。社地ノ鎮守

トシテ。御勸請アラセラル。延寶元祿二度ノ御
再建ニモ。御修營アリ。

末社

水室明神 慶安元年。本社御造營ノ時。建サセラル

ル、所十リ。扉ノ金物ハ。葵御紋ヲ彫レリ。

箱荷 小社十リ。是モ同時ニ御建立アリ。

若宮八幡 是モ御造營ノ時。松平新五左衛門直

次ノ與力同心等。造立スル所十リ。

太神宮 春日 天満宮 子安明神

荒神 四所明神 辨財天

以上七社ハ。慶安ノ度。御造營アリレ所ニテ。延

寶元禄ノ二度ニモ。御修營ヲ加ヘラレシニ。今

廢シテ再建ニ及バズ。

觀音堂

神樂堂 以上二字ハ。慶安ノ度。御建立アリレ所

十リ。

鐘樓 是モ同時ニ御建立アリ。鐘ニ慶安元年ノ

銘ヲ彫レリ。

普賢延命堂 是モ慶安ノ度。松平和泉守造立ス。

護摩堂

神輿堂 以上二字モ。同時ニ御建立アル所ニレ

テ。御修營モ前ニ同ジ。今ハ廢ス。

出現堂 酒井日向守建立スル所十リ。是モ今廢

ス。

回廊 蜂須賀飛驒守。水野周防守ノ造立スル所
ニテ。是モ今廢セリ。

石手水鉢 大森信濃守寄造ス。

石燈籠 渡邊十郎左衛門寄進ス。

銅釣燈籠 池田勘兵衛寄進ス。

石重塔 柴田三左衛門寄附ス。出現堂以下爰ニ

至ルニテ。皆慶安ノ度。寄附スル所ナリ。

銅燈籠 正徳三年。御本丸奥女中寄進ス。

放生池 本社ノ麓ニアリ。堅十間餘。横二間許。此

池ノ石垣瑞籬ハ。慶安御造營ノ時。増山兵部少

輔寄附セシニ。今ハ廢セリ。

的場 本社ノ南ニアリ。是前ニ云寛永十三年。松

平新五左衛門ガ組ノ者築シ所ニテ。今ニ其筋

ノ者射藝ヲ講スル所ナリ。

神木光リ松 本社ノ巽ノ方ニアリ。古木ハ枯テ。後

ニ植純シモノナリ。古松ハ則前ニ云鳩ノ宿リ

シ樹ナリ。

巖有院殿御降誕ノ時。幹ヨリ光リヲ放テ。靈瑞

ヲ顯ス。故ニ此名ヲ得。光松山ノ號モ是ヨリ起

レリト云。

石布袋手水鉢 出現堂跡ノ側ニアリ。元吹上御

庭中ニアリシ由。

嚴有院殿ノ賜物ナリ。

隨身門

惣門 以上ニ宇ハ。慶安ノ度。御建立アリシ所ナリ。

裏門

是モ慶安ノ度。内藤豊前守造立ス。

別當放生會寺 古義真言宗。高野山寶性院末光

松山威盛院ト號ス。本尊不動ヲ安ス。開山良昌

ハ。周防國ノ産ニテ。俗姓ハ榎本氏。高野山寶性

院青山ニ投ジテ薙深シ。諸國ヲ經歷シテ。寛永

十六年。陸奥國尾上八幡ニ恭籠ノ夜。將軍家

若君辛巳年夏ノ頃御降誕アルベキ由靈夢ヲ

得タリ。其後當國ニ來リシルベノ僧室ニ暫ク

錫ヲ止メシニ。同十八年。松平新五左衛門ガ組

ノ者ノ請ニ任セ。當社ノ別當職トナレリ。此年

辛巳八月。

嚴有院殿御降誕マシク。カノ靈夢ニ符合セリ。

此事イツトナク。上聞ニ達セシカバ。

大猷院殿御放鷹ノ時。當山ニ御立寄アリテ。良

昌ヲ召サセラレ。社ノ由緒ヲ聞シノサレ。光松
山放生會寺ノ號ヲ賜ハレリト云。是ヨリ以來
此邊御遊獵ノ時ハ。當寺ヲ御膳所ニ命ゼラ
レテ。今ニ然リ。良昌ハ。寛文九年十月二十六日
寂セリ。

什寶

柳ニ竹ノ御画

一幅

台徳院殿ノ御筆ト云。御自賛ノ和歌アリ。
柳千ルカタ岡野邊ノ秋風ニ。ヒトツフ
タツノ家ゾカクル。

肩子

一握

大猷院殿ノ賜物ニテ。開山良昌并領ス。便
面ニ御筆ノ詩歌アリ。左ノ如シ。

飛鳥去邊山侶眉。空低水潤影運々。上林
雖好非栖處。一任千枝與萬枝。
鴈カヘレ常世ノ華ノイカナレヤ。月ハ
イヅクモ霞ム春ノ夜。

福祿壽御画

一幅

常憲院殿ノ御筆ナリ。落款ニ御諱アリ。

揚柳觀音画像

一幅

探幽ノ筆十リ。

百躰大黒天画像

一幅

當山縁起

二卷

寛永十八年十二月。大橋龍慶ノ撰ニテ。男
長左衛門重政ノ筆十リ。

錫杖記

一卷

相傳フ寛永年間。神躰ノ手ニ持テ。錫杖ノ
連録一輪離去レ時。シヤクシヤウノ六字
ヲ歌ノ頭ニ置テ。百首ノ和歌ヲ詠ジ。神前
ニ備ヘレカバ。日ナラズレテ。カノ録舊ニ

復セシトナリ。此卷其事ヲ記セリ。

不動愛染画像

各幅

弘法大師筆

心経

一卷

同筆

十六善神画像

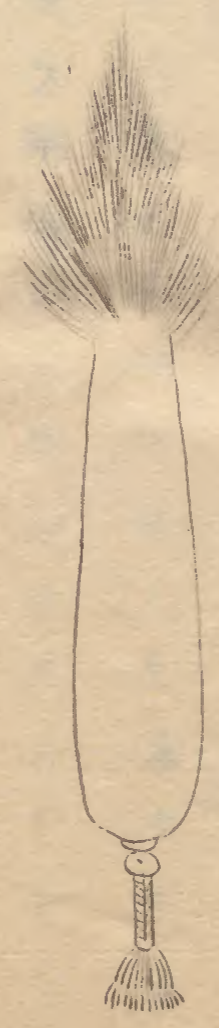
一幅

打出小槌

一箇

由來記一卷アリ。其略ニ。此槌。經紳家水無
瀬家ノ女感得セシ所ナリ。昔
聖武天皇此ノ如キ寶物ヲ。山城國錢原ノ

一宇ニ御寄納アリシカバ。彼寺ヲ寶寺ト
 號ス。信心ノ男女。祈願ノ意趣ヲ掌ニ書シ
 テ。此槌モテソノ掌ヲ打テバ。所願成就ス
 ト云。槌圖左ノ如シ。



槌トハイヘド。其形ハ槌ニ似ズ。寶永ニ乙

酉年三月。松尾院達賢ト記セルモノヲ

七藏セリコノコト山城寶寺ニモ見ユ

佛舍利 一粒

舍利記一卷アリ。

寺中

松濟院

光濟院 是ハ廢院トナリテ。未再建ニ及バヌ。

門前町屋 間口八十間步數四百九十二

天神社 往古ハ牛込ノ總鎮寺ニテ。牛込天神町ニ

アリシヲ。正保三年。祖心禪尼ノ願ニ依テ。今ノ尾

張殿戸山屋鋪ノ地へ移シテ造營シ。其後延寶三
年。台命ニ因テ。今ノ地ニ轉ゼラルト云。神跡ハ
座像長三尺。大橋龍慶ガ手刻スル所ナリ。別ニ管
家自作長一寸八分。蓮葉ニ座セル像。及源實朝守
護佛十一面觀音。管家直作ノ不動ヲ相殿トス。管
家自刻ノ神跡ハ。元
大猷院殿ノ御守護神ナリシヲ。大橋龍慶ニ賜ハ
リ。後當社へ納ムト云。社實ニ管家自筆經文。及大
橋龍慶奉納セシ。三十六歌仙ノ額アリ。其裏銘ニ
牛込天神宮寶前寄進。寛永十三丙子九月二十五

日遷宮云々トアリ。是天神所ニアリシ時ノ造營
トニエタリ。
末社 三峯 鬼子母神 吉祥天
別當真定院 新義真言宗。麻布不動院末。天龍山
松徳寺ト號ス。開山日祐。寛永九年起立シ。寛文
三年九月二十日寂ス。本尊阿彌陀。
三島社 當社ハ古社ニテ。上杉ノ家臣恒岡彈正忠
再建スル所ト云傳フ。按ニ此人ハ戸塚村ノ條ニ
記ス如ク。小田原役帳ニ。江戸牛込内富塚五百文
ノ地ヲ領ストアレバ。此邊彼ガ領中ニシテ。再建

ノ檀那トナリレナラン。夕、上杉ノ家臣ト傳ヘ
レハ誤レリ。寶泉寺持。

第六天社 社傍ニ小庵ヲ建テ。社ヲ守ラシム。蓮華
院ト云。持前ニ同ジ。

寶泉寺 天台宗。東叡山末。禅英山了心院ト號ス。此

院號ハ。延寶年中。日光御門主ヨリ賜フ所ナリ。本

尊藥師。長ニ尺。春日ノ作ト云。天慶四年。藤原秀郷

ノ開基ニテ。始ハ秀寶寺ト號セシヲ。逢ノ星霜ヲ

經。天文ノ頃。比叡山寶泉坊秀寶ト云。僧住持トナ

リシヨリ。改テ寶泉寺ト號スナド傳フ。僧名ト寺

號ト偶同カリシモ。奇ナリト云ベシ。按ニ境内稻

荷社ハ。上杉氏ノ建立ナリレ由。モレサアラシニ

ハ。恐クハ其頃彼社ノ別當寺ニ造立シ。則秀寶ハ

開山タリシヲ。古刹ナルヲ證セントシテ。秀郷ノ

開基ナド、附會シ。秀寶ハ却テ開山ノ名ヲ失ヒ

シニヤ。トニカク定カナル擬ハナシ。境内毘沙門

ノ事モ。爰ニ推シテ知ベシ。

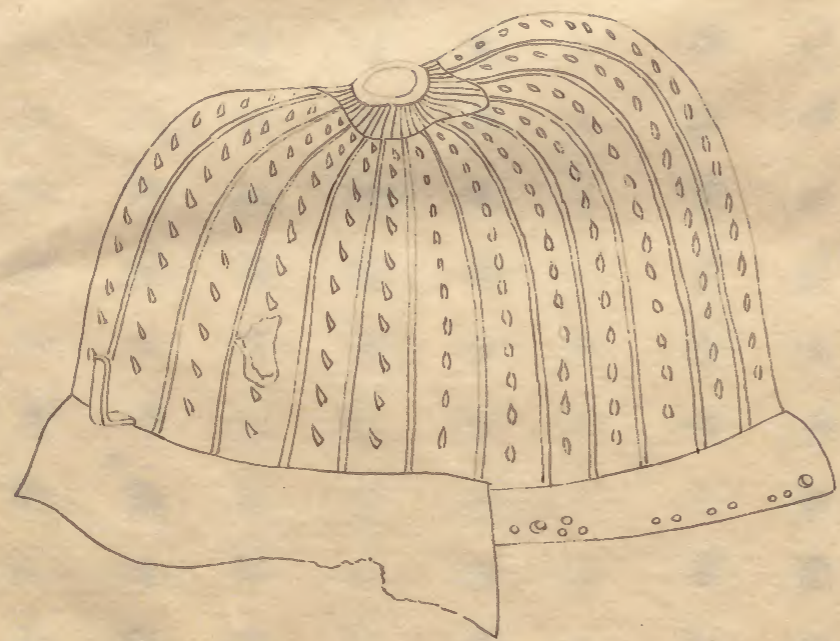
寺寶

兜

一頭

楠正成着領ノ由。大久保某ヨリ納ム。天正十

四年六月十八日。大久保彌三郎ガ記セシ添
 狀アリ。其畧ニ。此星甲者。越前國豊原住人貞
 生作ニテ。建武二年。楠正成。其子庄五郎正行
 ニ譲リ。楠滅亡ノ後。足利家ニ傳ヘ。其後轉傳
 シテ。大久保新八郎忠俊ニ傳ハリ。忠俊次男
 忠政ニ傳フトアリ。大久保家譜ヲ按ニ。忠政
 少名彌三郎ト稱シ。叔父彌三郎忠久ガ養子
 ト成リ。後年大久保三郎右衛門ト稱セシ人
 ナリ。當寺ノ寄附セシ年月等ハ。詳ニセス。其
 圖ハ左ニノス。



毘沙門堂 高サニ丈餘ノ山上ニアリ。毘沙門ハ
慈覺大師ノ作。長ニ尺五寸。此像元ハ上野國佐
野大慈寺ニアリシヲ。天慶四年。藤原秀卿志願
ニヨリテ。爰ニ移スト云。當寺天正六年ノ記録
ニ。此本尊者俵藤太秀卿持佛ノ由見エ。又此所
ハ往古中務卿宗良親王陣取アリシ所ナリト
ト傳ヘリ。
稻荷社 水稻荷ト號ス。當寺日記ノ寫ナリト云
モノアリ。其内ニ。文龜元年再興。大檀那上杉治
部少輔入道朝良云々トアリ。又上杉系圖異本

ニ。治部少輔朝良。文龜元年辛酉年。依靈夢江北高
田郷戸塚村稻荷大明神勸請。今寶泉寺境内戸
塚稻荷是也トアリ。寺傳ト違ヘリ。又當社ノ棟
札ナリトテ。コレモ其寫ヲ藏セリ。其文ニ。天文
十九年庚戌二月二十九日。北條氏綱之時代。牛
込主膳時國再興。大僧都別當寶泉坊秀寶云々
トアリ。氏綱ハ天文十年ノ卒ナリ。年代モ違ヒ。
且牛込系圖時國ナシ。後天和二年。佐藤勘右衛
門信次再ビ造營スト云。信次子孫今美濃守信
顯ナリ。神鉢ハ朝良夢中感得ノ像ヲ彫刻スル

所ト云。長一尺五寸。本地十一面觀音。長二尺五寸。慈覺大師ノ作。及陀釈尼天ノ像ヲ合殿トス。淺間社。高サ三文餘ノ假山上ニアリ。安永八年ノ勸詣ニテ。山ハ奇石ヲ疊ミテ築立。巧ヲ極メ夕リ。毎歲六月十五日ヨリ。十八日マテ。登山ヲ許シ。參詣ノ人ニギハヘリ。里人高田富士ト云ヘリ。

念佛堂。阿彌陀ヲ置。聖德太子作。立像長ニ尺五寸。

鐘樓。正徳元年鑄造ノ鐘ヲカク。

千歳松。古木ハ枯テ。若木ヲ植ツゲリ。

大猷院殿御放鷹ノ時。古木ナレヲ。上覽アリテ。名付賜ヒシト云。

籬立櫻。是モ古木ハ枯テ。植ツギシモノナリ。宗良親王籬ヲ立ラレシ所ナレバ。此名アリナド云リ。

蛸場池。是モ寛永ノ頃。御放鷹ノ時。名ヅケ給ヒシト云。

古榎樹。少クニ水アリ。イカナル旱魃ニモカレル事ナシ。眼ヲ患ル者。コノ水ニテ洗ヘバ。必ズ

驗了りト云。

法輪寺 法華宗。駿河國富士郡北山本門寺末。萬年
山ト號ス。本尊三寶ヲ安ス。開山日賢。寛文九年九
月二十三日寂ス。

藏王社 神躰ハ坂上田村麻呂感得ノ像ニテ。東
夷征伐ノ時。此地ニ安スト云。大黒天ヲ合殿ト
ス。

觀音寺 新義真言宗。牛込南藏院門徒。慈雲山大悲
院ト號ス。本尊十一面觀音ヲ安ス。智證大師ノ作。
立像長二尺許。開山賢榮。寛文十三年起立ス。

不動堂

龍泉院 同宗。葛飾郡寺島村蓮華寺末。松竹山ト號
ス。本尊彌勒ヲ安ス。開山來俊。寛保三年七月寂ス。

觀音堂

聖天社

東福院 古義真言宗。放生會寺末。本尊千手觀音ヲ
安置ス。

尾張殿抱添屋鋪 六町五段八畝八步。

清水殿抱添地 一町三段二畝二十二步。

細川越中守内室抱屋鋪 二町七段四畝十六步。

水野出羽守抱屋鋪	三町七段八畝二步。
中山備前守抱屋鋪	二町五段二畝四步。
蒔田權佐抱屋鋪	五段五畝十七步。
前田對馬守抱屋鋪	九畝十三步。
嶋彌左衛門抱屋鋪	三段十步。
增井惣八郎抱屋鋪	六段八畝九步。
工藤佐兵衛抱屋鋪	一段九步。
吉川藤次郎抱屋鋪	一段七畝二十四步。
中田半藏抱屋鋪	七畝十五步。
松井富五郎抱屋鋪	一段二畝十五步。

河野左源次抱屋鋪	一段三畝十步。
本多又左衛門抱屋鋪	二段三畝十二步。
勝屋熊藏抱屋鋪	八段五畝十六步。
河野善太郎抱屋鋪	一段二畝二十二步。
放生會寺抱添地	二段三畝二十六步。

新編武藏風土記卷之十一終

